

令和3年度 新規収蔵品の紹介



CONTENTS

- ・研究の散歩道 ハイレベルな構成力、葛飾北斎の『絵本隅田川兩岸一覽』
えほんすみだがりょうがんいちらん
- ・スマートフォンアプリ「ハイパー江戸博」をリリース!
- ・図書室からお知らせ

新規収蔵品の紹介

令和3年度も、みなさまのご協力によって、多くの博物館資料を収集することができました。その一部をここに紹介いたします。
*各資料の解説は、寺田早苗、岡本加椰、丹藤真子が担当いたしました。

1

「昭和大東京百図絵」

制作背景

神宮外苑競技場のスタジアムへ続く道には日傘をもった女性やサラリーマン風の男性が描かれ、客席には溢れんばかりの人々が描かれています。

本資料は「昭和大東京百図絵」シリーズの1枚で、作者の小泉癸巳男（1893〜1945）は関東大震災の復興事業を経て完成した東京の新しい景色を描きました。そのこだわりは強く、1930年（昭和5）から本シリーズの制作を開始し、目標の百図に達してもなお満足することなく制作を続け、1940年（昭和15）にその中から百図を選び完成させました。その時小泉が作成した目録に、本資料の名前はありませぬ。完成版を確定する上で省かれたものと思われませんが、復興後の新名所に老若男女が集い、スポーツ観戦を楽しむ様子が大変さわやかな一枚です。



昭和大東京百図絵版画
第二十七景
五月のスポーツ・シーズン
神宮外苑
小泉癸巳男／画 1932年（昭和7）
資料番号 21200006

2

鳥の鳴き声を競う

「鳴き合わせ」道具

鳴き合わせとは、ウグイスなどを幼鳥より飼養し、笛などで人為的に覚えさせた鳴き声の優劣を競う遊戯のことです。

鳴き合わせには、籠桶や鳴き台などの道具を 사용합니다。ウグイスの飼養や鳴き合わせについて紹介した「春鳥談」（1845年（弘化2））にも描かれており、昭和期に使用された本資料にも形態が踏襲されています。なかでも籠桶は、籠と鳥をおさめるだけではなく、内側を湾曲につくることで、鳥の声をより響かせることができたそうです。前戸の装飾も豪華で、当時の職人の技と、愛好家の心酔ぶりがうかがえます。



籠桶 黒檀製
昭和後期
資料番号 21000202

3

町火消の刺子半纏

度重なる大火に見舞われた江戸の町にあって、1720年（享保5）には隅田川以西の市街を分けて「いろは文字」をあてた47組（のち48組）の火消組織が作られ、その後本所・深川においても16組が作られました。

本資料は、日本橋大伝馬町周辺を受け持った「は組」の火消人足が身にまとった刺子半纏です。背には「は」の文字、腰には「は組」「消口」と書かれた消札が配されます。消口とは延焼をくいとめた地点のことで、そこに組名を書いた消札を掲げることで組の功名を示しました。刺子半纏の裏側には雲竜と滝が描かれますが、このように水を想起させるモチーフは好まれたようです。表・裏共に町火消らしい意匠です。



刺子半纏 町火消は組町頭所用
江戸後期頃
資料番号 21200014

ハイレベルな構成力、 葛飾北斎の『絵本隅田川兩岸一覽』

学芸員
朴美姫・文

葛 飾北斎は世界で最も知られた浮世絵師である。主に『北斎漫画』や、『富嶽三十六景』などが広く知られているが、狂歌集に挿絵を描いた狂歌絵本も数多く手掛けており、『画本狂歌山満多山』や『東遊』、『東都名所一覽』など、現在、約40種余の存在が確認されている。その中でも代表作の一つである『絵本隅田川兩岸一覽』は、現在の墨田区亀沢辺りに生まれ、隅田川流域に精通していた北斎ならではの構成、そして計算し尽くされた構図である一方、多くの「決めごと」を有する作品として知られている。

その決めごととは、まず、見開きの図はそれぞれ完結し、すべての図は絵巻物のようにつながること。2つ目は、隅田川を下流から上流に遡りつつ、両岸における各名所を取り上げ、その場所が最も魅力を發揮する季節を四季の流れに沿って取り入れること。そして3つ目は、その季節に合わせた風俗と人物を描くこと、で

ある。この3つの条件を満たしながら描くことは、緻密な計算が不可欠なもので、描き手に相当な技量が求められる。しかし北斎はそれにも関わらず、以上の条件を満たしながら、真摯にかつ明快に隅田川流域を描き上げている。

例えば、浅草寺北の待乳山聖天をとらえた連続する図をご覧いただきたい。浮世絵において、待乳山聖天は隅田川を臨み、竹屋の渡しにほど近い小丘であったことから、全体の風景を俯瞰的にとらえ、その高さを強調する場合が多い。しかし北斎はあえて画面いっばいに待乳山聖天を捉え、対岸の三囲神社を見下ろしているように描き、その高さを表して視点の異なる場面を共存させている。また、前図とつながる手前の石の鳥居は、対岸の三囲神社の鳥居と対象的に配置し、遠近の対比も強調させている。

続く場面は夕暮れの隅田川を背景にした今戸の作業場である。絵地図で

確認すると、対岸に描かれた森は現在の白鬚神社であると考えられ、木立の中をよく見ると、白鬚神社の鳥居らしきものが小さく描かれている。

このように『絵本隅田川兩岸一覽』は、風景画の慣例にとらわれず、両岸の風景や個々の場所に合わせた要素を見事にまとめあげた北斎ならではの「隅田川の風景」である。



「天保改正 御江戸大絵図」(部分) 1846年(弘化3) 資料番号 86213222



今戸の夕烟 白鬚の龍松

待乳山の紅葉

花川戸の参籠 向島の時雨

『絵本隅田川兩岸一覽』下巻 葛飾北斎/画 鶴屋喜右衛門/版 資料番号 13200065



図書室から
お知らせ

長期休館中の

図書室の 仕事 Vol.8 本の引越し

大規模改修工事に伴い、図書室では約26万点の本の引越しを行いました。

図書室の本はお客様に手に取って読んでいただくとともに、博物館資料として大切に保管し、展示にも活用しています。そのため、引越しで本が傷まないよう、丁寧に梱包され、

細心の注意を払って倉庫へ運ばれました。本がすべて搬出され、がらんとした書庫は心寂しくもありますが、より充実した図書室となるよう、リニューアルオープンへ向け準備を進めてまいります。

図書室は長期休館中、当館敷地内に設置予定の仮事務所において、事前予約制により本の閲覧サービスを行う予定です。詳細が決まりましたら、ホームページでお知らせいたします。また皆様に本を通じてお会いできる日を心待ちにしております。

スマートフォンアプリ「ハイパー江戸博」をリリース！

4月22日、当館は収蔵品の新たな鑑賞体験を提供するスマートフォンアプリ「ハイパー江戸博」をリリースしました。このアプリは、3DCGで再現された江戸の盛り場、両国橋付近を走り回り、当館所蔵の収蔵品から選ばれた100点を集めていくものです。見世物小屋の見物や、火事や花火、葛飾北斎をはじめとする江戸時代の資料をもとにデザインされた多彩なキャラクターとの出会いも待っています。ゲームエンジンを本格利用した博物館提供アプリは国内初。

是非、「江戸を持ち歩く」感覚で楽しんでいただきたいです。
(学芸員 春木晶子)



アプリの
ダウンロード
はこちらから

江戸東京たてもの園 特別展のお知らせ

江戸東京たてもの園 特別展 「江戸東京博物館コレクション—東京の歩んだ道」 2022年6月25日(土)～2023年2月12日(日)

会場：江戸東京たてもの園 展示室
主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団
江戸東京たてもの園

長い休館に入った江戸東京博物館の常設展をコンパクトにまとめ、展示されていた資料や模型に加え、たてもの園の前身にあたる武蔵野郷土館が収集した資料も交えながら、東京が歩んできた歴史を振り返ります。



休館情報

当館は2022年4月1日から2025年度中(予定)の休館となります。休館中も館外の他会場等を活用した事業を実施する予定です。詳細につきましては確定し次第、ホームページやSNSでお知らせいたします。

江戸東京博物館 NEWS vol.116

ホームページ <https://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

お問い合わせ 03-3626-9974 (代表) 平日9時30分から17時30分
発行日 2022年7月15日(金)
編集・発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1
制作・印刷 株式会社D_CODE



お詫びと訂正

2021年12月発行の江戸東京博物館NEWS Vol.115、3頁掲載の「『洋風建築のはじまり』としての擬洋風建築」の文中に誤記がございました。「渋沢栄一からの依頼で作った〈第一国立銀行〉1872年(明治5)」とありますが、正しくは1872年に三井組の依頼で三井組ハウスが作られ、その完成から2ヶ月後に第一国立銀行に譲渡されました。訂正してお詫び申し上げます。